自然素材活用型真壁仕様木造軸組み架構の開発

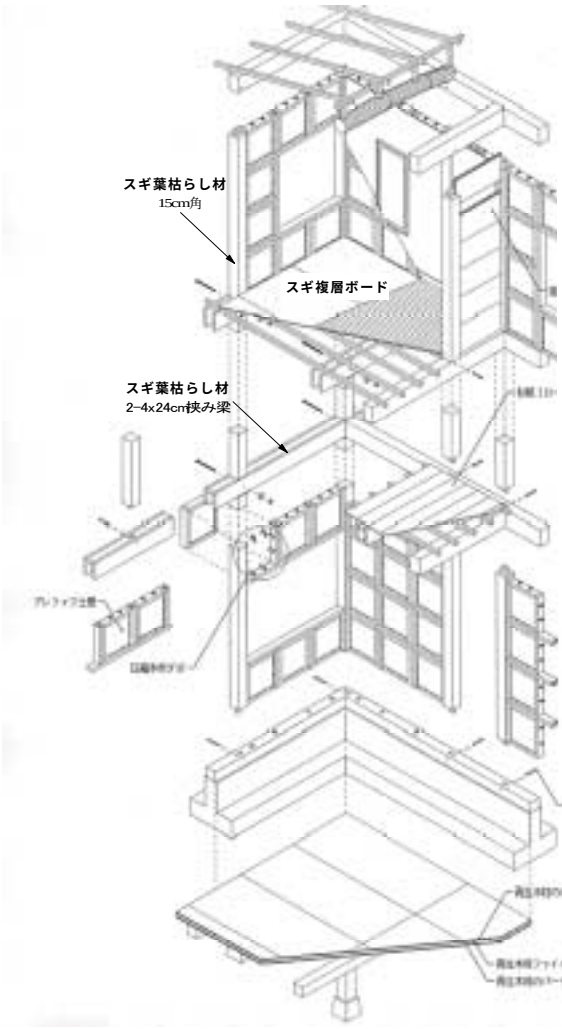
伝統構法が受け継いできた「土」や「木材」といった自然素材の使い方をもう一度再認識

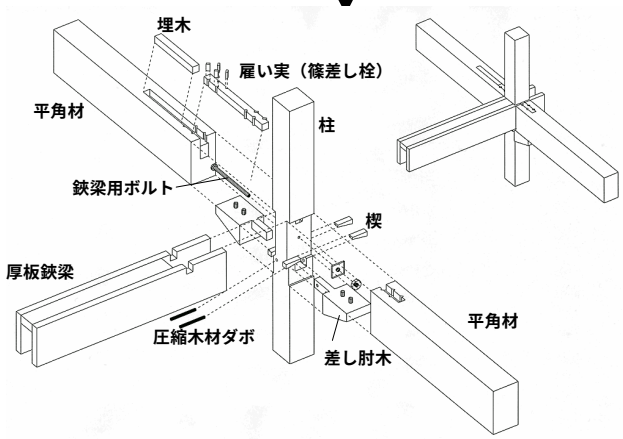
↓

地域産材の活用。葉枯らし材に注目。軸組み材を
壁の内部に閉じこめず、施工後の通気を可能とする。

真壁仕様木造軸組み架構

H15年度の課題　：　葉枯らし材を用いた、張間方向は「挟み梁構法」、桁行き方向は「付け肘木構法」による立体骨組み架構の実現→実大部分実験によって構造耐力を確認





H16-H17年度の課題　：

土塗り壁による小壁、袖壁、腰壁等の非正規な耐力要素（雑壁）に期待した、開放的な木造軸組み躯体の開発

→　限界耐力設計法を志向した高度な設計法の開発